

26年4月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 3月20日 ~ 26年4月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight.D.I.

品目		26/4月	5月	6月
入荷動向	国産材製材品	0.0	12.5	12.5
	外材製材品	12.5	6.3	0.0
	その他	8.3	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	56.3	43.8	31.3
	外材製材品	43.8	37.5	37.5
	その他	41.7	33.3	16.7
在庫動向	国産材製材品	6.3	12.5	12.5
	外材製材品	0.0	6.3	6.3
	その他	50.0	50.0	50.0

国産材製材品の入荷は、4月の横ばいから、5,6月にはやや増加、外材製材品は4,5月のやや減が6月には横ばいに、その他は4月のやや減が5,6月には横ばいに。
販売はいずれの品目共に減少傾向で推移。国産材製材品の在庫はやや増加傾向で推移、外材製材品は4月の横ばいが5,6月にはやや減に、その他は増加傾向で推移。

(2) 価格動向 Weight.D.I.

品目		26/4月	5月	6月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	6.3	0.0	0.0
	通し柱 12×6	7.1	7.1	7.1
	桁角	0.0	6.3	0.0
	母屋角	6.3	6.3	6.3
	タルキ	0.0	0.0	12.5
	間柱	0.0	0.0	6.3
	加工板	7.1	7.1	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	7.1	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	43.8	43.8	31.3
	柱角 KD12×3	43.8	43.8	31.3
	土台角 10.5×4	56.3	50.0	37.5
	土台角 12×4	56.3	50.0	37.5
	通し柱 12×6	28.6	28.6	28.6
カマツ土台角10.5×4	0.0	50.0	50.0	
米マツ平角	7.1	14.3	14.3	
米マツ割物	7.1	7.1	7.1	
北洋エゾマツタルキ	0.0	12.5	12.5	
北洋アカマツタルキ	0.0	0.0	7.1	

スギ製材品の価格は、一部にやや弱保合の品目もあるが、総じて保合ないしやや強保合で推移。
ヒノキ製材品は総じて弱含みないし弱保合で推移。
カマツ土台は4月の保合が5,6月には弱含みに。
米マツ平角及び割物はやや弱保合で推移。
エゾマツタルキ及びアカマツタルキは4月の保合が6月に向けてやや弱保合に。

モニターからのコメント

・ヒノキ土台、柱角は入荷良好、スギ間柱、羽柄材も比較的良好になってきている。外材は需給バランスが取れている状態。販売は全てにおいて3月の駆け込み需要で、4月は減少。販売の落ち込みにより全体的な在庫量は増加傾向。スギKD柱は販売価格下落傾向、桁、母屋（グリーン）も販売は下落傾向。羽柄材は量的に多くなく需給バランスが取れた状態で価格は横ばい。ヒノキ柱、土台（KD）は入荷増で価格は下落傾向、通し柱は量的に多くなく横ばい。米マツ製材品は入出荷とも多くなく需給バランス取れており価格は横ばい。北洋材については一部安値材出ているが安定販売されている。

・国産材製材品、WW及びアカマツの入荷順調。3月仕入れ分まだ残っているが4月になって売り上げ減少。消費税がらみで動き減少し在庫は増加。スギKD柱10.5及び12共に65,000円/m³、桁（岩手）42,000円/m³、母屋特42,000円/m³、バタ28,000円/m³、タルキ（岩手）45,000円/m³、KD間柱66,000円/m³、加工板（G）2,800円/束、（KD）3,800円/束、ヌキ（秋田）50,000円/m³、（岩手）45,000円/m³、平割（プレーナー）48,000円/m³、（ラフ）40,000円/m³、ヒノキKD柱10.5及び12共 98,000円 /m³、土台12及び10.5共95,000円/m³、米マツKD平角70,000円/m³、AD割物65,000円/m³、北洋アカマツタルキS 68,000円/m³、P 58,000円/m³。

・入荷はいずれも悪い。買い控えもあり単価の良し悪しもあり難しいところ。秋、冬相場で仕入れた高い製品の処分がカギ。スギ丸太価格まだ高くスギ製品も高い。ヒノキ丸太価格は下落基調で製品も下落してきたところ。米マツ製品は相場軟調でやや下落。エゾマツ及びアカマツタルキは強い。

・ヒノキは特に入荷量増加、国産材の販売は3月中旬から減少。国産材製材品の在庫は増加しているが、急激ではない。スギ製材品は全体的には横ばいも柱は弱含み、小割及び羽柄は入荷増えず変わらず。ヒノキ柱、土台とも構造材は需要一段落し、弱含みへ、通し柱は在庫増はなく大きな下落無いと予想。

・ヒノキの入荷はあるがスギは少ない。合板工場、バイオマス発電に移行か。3月中旬以降KD材のプレカット工場からの引き合い急減し値下がり。WWの販売も減少。4月から在庫が増える。

・国産材製材品は、4月、5月は3月までの反動で売上げ減少の見込み、幅は未定、その他材は公共事業用土木用材、パレット等5月以降やや増加する。スギKD材（特に柱、間柱）は需要の大きな落ち込みにかかわらず、大きな変動は予想できない。

・九州地区スギ丸太の相場は下がっておらず、供給過多によるグリーン材の値下がりが予想される、4月に入り、実際2,000円から3,000円下がっている。九州地区ではヒノキ丸太が下落し昨年秋の需要に戻っている、土台が中心のためプレカットの需要の落ち込みにより、荷余りが予想され、特にグリーン・ラフ材は、まだまだ下がる可能性あり。米マツメーカー値下げの予定はない模様。